

# 英語科学習指導案

指導者 赤松 猛

**日時** 平成27年11月21日(土) 第2校時(11:05~11:55)  
**年組** 中学校第1学年1・2組 計26名(男子12名, 女子14名)  
**場所** 中学校第1学年2組教室  
**題材** 話し合いを通じて考えを深めよう

## 題材について

本時の題材は、平成18年度版の *Columbus 21 English Course 1* (光村図書) の Unit 9 を一部改編したものである。この教科書では、アメリカ人の少女 Jenny が日本人の少年 Hiro の家庭に滞在する設定で Unit が構成されている。外国人が日本にやってくるという設定自体は珍しいものではないが、それぞれの Unit の状況設定や扱われている内容が興味深いものが多い。例えば、Unit 4 では、病気のために車椅子で生活しているアメリカの少女と Hiro がビデオ通話を行う設定になっていたり、Unit 6 と Unit 7 では、部活のサッカー練習に打ち込めずに悩む Hiro に対して、ブラジルの有名なサッカー選手がストリートサッカーを純粋に楽しむブラジルの子供たちを紹介して、問題を解決していく話になっていたりする。本時で扱う Unit 9 は、Hiro の家で飼われている老犬 Leo を通して、動物の死やペットとの関わり方を考えさせる内容である。なお、通常使用している教科書は *New Horizon English Course 1* (東京書籍) で、11月中旬の時点では、現在進行形・助動詞 can・過去形は、まだ学習していない状態である。

このクラスは、1学年(80名)を3分割したクラスの1つである。4月に学習に関するアンケートを実施して、授業への取り組みに関して均等になるように分割した。4月以降、個人活動とペア活動を織り交ぜながら授業を進める場面が多かったが、男女の仲も悪くなく、さまざまな活動に積極的に取り組むことができている。その一方で、文法的な知識を整理するような説明や学習したことを応用して何かを推測することに対して、やや消極的な面が見られる。また、教科書本文の読み取りにおいても、根拠を示しながら場面を想像したり、行間を読んだりすることは苦手である。10月初旬に実施した調査(5文から成る文章の各文中の空欄に限定詞を入れるテスト)では、空欄1~5の正答率はそれぞれ54%、36%、56%、50%、20%で、解答を選んだ理由をほぼ正確に記述できた生徒は、それぞれ2%、14%、34%、6%、0%であった。英語に触れている時間が絶対的に少ない学習段階で、メタ言語知識を身に付けていることを要求している訳ではないが、場面や状況を十分に理解できていない説明も少なくなかった。

本題材を扱うにあたって、想像することや考えを互いに伝え合うことの重要性を生徒に認識させるように指導したい。4月以降の授業においては、ペア活動などで互いを関わらせることは行っているが、考えを共有したり、考えを深めたりするような活動を十分に行うことはできていない。また、英文をじっくり読むという習慣も付けることはできていない。そこで、本題材を読むという活動を通して、共に考える機会を提供したい。英文を読むという活動の中には大別して2つの側面があると考えている。1つは内容理解に重点を置いた側面であり、日本語を読むときと同様に、書かれている内容を理解した上で、自分の考えを整理したり、登場人物の心情を推測したりすることである。かなり自由な読みが許される場合もあれば、場面や状況から許容される読み取りが限定される場合もある。もう1つは、英語理解に焦点を当てる読みである。全体の概要を理解した後に、文法規則への気づきを促す、文法事項の機能的側面を意識させる、語彙の選択について考えさせるなど、読むことを通して、英語の知識やメタ言語知識を獲得する側面である。2つの側面をバランスよく取り入れながら、中学校1年という生徒の実態に合わせた読みの授業を展開したい。

## 指導目標

1. 間違いを恐れずに日本語や英語で自分の考えを伝えさせる。
2. 場面や状況を想像して、物語の内容を理解できるようにする。
3. 助動詞 can の使い方を理解させる。

## 指導計画

1. 英文を読んで、状況を想像しよう . . . . . 1時間
2. 英文を読んで、考えよう . . . . . 1時間
3. 英文を読んで、考えを深めよう . . . . . 1時間（本時）

## 本時の目標

英文を読んで、書かれていないことを想像したり、書かれていることから推測したりすることができる。

## 「グローバル時代をきりひらく資質・能力」の視点

今年度、英語科で設定した視点は、①創造力 ②思考力 ③メタ言語知識 ④コミュニケーション力 ⑤協働性（コラボレーション）である。創造力と協働性については、ペア活動やグループ活動で場面や状況を想像する課題を与えるが、互いに関わり合う中で他者との違いに気付いたり、新たな疑問が生じたりことをねらっている。コミュニケーション力は英語の授業には不可欠なものではあるが、英語でのやりとりだけでなく、日本語を使用してでも、自分の考えを適切に伝えて、相手の考えを理解しようと努める態度を育成することは重要である。本時の授業では思考力とメタ言語知識に関わる部分が大きいと考えている。思考力に関して、限られた情報から自由に想像する課題と書かれている英語から推論する課題が含まれており、特に後者については英語の理解と結びつけて考えさせる必要がある。メタ言語知識については、肯定文・疑問文・否定文における助動詞 can の振る舞いや倒置の語順に着目させたい。中学1年という学習段階を考えると、言語の規則性に気付くことは難しいかもしれないが、多様な気付きがあることを期待したい。

## 学習の展開

学習活動と内容	指導上の留意点（◆評価）
<p>1. Greetings（5分）</p> <p>2. Warm-up（10分）</p> <p><input type="checkbox"/> Questions &amp; Answers</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・聞かれたことに対して2文以上の英文で答える。</li></ul> <p><input type="checkbox"/> Repetition drill</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・提示された文字を正確に読み取り、音読する。</li><li>・提示された音声を正確に聞き取り、音読する。</li></ul>	<p>○コミュニケーションを継続させようとする意識をもつように促す。</p> <p>○未知語が含まれていても、文字情報や音声情報から何とか推測して音読するように指示する。</p>

### 3. Speaking drill (5分)

#### Repetition drill (ペア活動)

- ・ 相手が読む英文を聞いて、正確に復唱する。

#### Translation drill (ペア活動)

- ・ 日本語を聞いて、それを英語で表現する。
- ・ 助動詞 can の構造を確認する。

### 4. Reading activity (25分)

#### Words & phrases

- ・ 未習語の発音・意味を確認する。

#### 本文の黙読・音読

- ・ 対話全体を通読することにより、話の概略をつかむ。

#### 内容理解

- ・ なぜ Hiro は励まされていると思うか。
- ・ Leo とは誰なのか。
- ・ Leo is lazy these days. とは具体的にどのような状態だと思うか。
- ・ 校庭はどのような状況だったと思うか。
- ・ なぜ二人は学校へ向かったと思うか。
- ・ Sanae とは誰なのか。
- ・ Hiro が“Wait!”と言ったときに何が起こったのか。
- ・ There she is. と Here comes the rain. の2文を取り上げて、共通点や相違点を考える。

### 5. Consolidation (5分)

#### 本文音読

○相手に伝えることに重点を置き、適切な声量とスピードで英文を読むように留意させる。

○速く反応できるようになるまで練習させる。

○語レベルで確認しにくいものについては、句レベルで確認させる。

○役割練習することで、場面を想像しながら理解できるようにする。

○ペアで話し合わせて、自由に意見を出させる。

○グループで話し合わせて、多様な考えを共有させる。

○本文から推測できる課題と自由に想像できる課題を区別して考えさせる。

◆話し合いを通じて、自分の考えが深まっているか。【外国語理解の能力】